



クラブ運営方針 小さな奉仕を重ねよう、大きな目標のために

奉仕を通じて
平和を

2012-2013年度

広島北ロータリークラブ週報

2013年1月24日発行 Vol. 1339

国際ロータリー会長 田中 作次 氏
国際ロータリーテーマ
奉仕を通じて 平和を
Peace Through Service

■会長 水野 勝 ■幹事 山内 盛利
事務局 広島市南区松原町 1-5 ホテルグランヴィア広島 6F
TEL 082-506-0050 FAX 082-506-2530
E-Mail:hnrc@world.ocn.ne.jp URL http://www.hnrc.jp/
例会会場 ホテルグランヴィア広島

■本日の例会 2013年1月24日(木) 第2118回
ロータリーソング 「われら広島北ロータリー」
来客紹介 ロータリー家族親睦委員会
連続出席表彰
会長時間
幹事報告
委員会報告
ニコニコ箱
卓話時間 『年男の弁 Part1』
福田 拓造 会員
中尾 建三 会員
岡崎 陽一 会員

会長時間 会長 水野 勝

今月はロータリー理解推進月間です。ガバナー月信で大之木ガバナーも言われているように、この月間は対外的なロータリーの宣伝、広報のみを意味するものではなく、対内的にもクラブ同士、ロータリアン同士でも理解を深めていく月間です。「もっとロータリーを！心と行動に」を実践しましょう。また南園パストガバナーのカウンセラーズメッセージによりますと、昨年11月より「ロータリーの綱領」の日本語版が「ロータリーの目的」と改訂されました。「The Object of Rotary」の英語原文の内容は変わりませんが、日本語訳が現代的な表現となり、わかりやすい文章に改訂されています。

さて、先週2011～12年田村ガバナー年度の地区活動報告書が配布されました。東日本大震災の4カ月後にスタートしたため、その対応についても大変だったと思います。

地区内表彰では、団体表彰として当クラブはRI会長賞、チェンジメーカー賞を受賞、ロータリー財団年次寄付総額第2位、米山記念奨学会寄付総額第4位となり、さらに米山記念奨学会功労クラブ38回を獲得しております。改めて高原パスト会長とお世話された方々、全会員の皆様に敬意を表したいと思います。

個人表彰では40年以上100%出席者岸本会員、山本忠男会員、長寿会員として米寿・岸本会員、瀬川会員、マルチプルボパール・ハリス・フェローとして高原会員、久保雅史会員、岩森会員、岸本会員、福田会員、泉会員、庄子会員、米山功労者マルチプルとして高原会員6回、岡崎会員4回、山下正司会員2回、水野2回、米山功労者として中根会員、石井会員、小田会員、神農会員が表彰されております。

田村パストガバナーは大学の1年後輩で、地区大会で会っても「おい、泰ちゃん」とつい言ってしまいましたが、それでも彼はニコニコして「先生、元気そうじゃね」と言ってくれました。高原パスト会長共々素晴らしいガバナーと会長であったと思います。

前回例会報告 2013年1月17日(木) 第2117回

ロータリーソング 「われらの生業」
来客紹介 ロータリー家族親睦委員会
誕生日お祝い
連続出席表彰
会長時間
幹事報告
委員会報告
ニコニコ箱
卓話時間

(株)サンプレツェ広島
管理強化部 強化部 部長
織田 秀和 氏
『念願のJ1制覇と新シーズンに向けて』

誕生日お祝い



左から、中嶋会員・久保豊年会員、水野会長
おめでとうございます。

幹事報告 幹事 山内 盛利

- *ロータリーソング「R-O-T-A-R-Y」について、3月に開催されますIMにおいて歌われますので、是非覚えてください。
- *SAKUJI大作戦について
- *ロータリーの友 (BOX配布物)
- *1月例会予定表 (BOX配布物)

連続出席表彰



2年 佐々木礼正 会員



【R-O-T-A-R-Y】

R-O-T-A-R-Y
That spells Rotary;
R-O-T-A-R-Y
Is known on land and sea;
From North to South, From East to West.
He profits most who serves the best;
R-O-T-A-R-Y
That spells Rotary.

委員会報告

会報IT委員会 鈴木委員長

ロータリーの友1月号紹介

横組 P1 RI会長メッセージ

P5 ロータリーの友創刊60周年

P18「ロータリーの目的」と「RI戦略計画の理念」

縦組 P17「日本人のDNA」奈良大宮RC 中蔦 大 氏

P25「ひろしまピースカップでの感動」広島南RC

P44「第2710地区 地区大会」

是非、ご一読ください。

ニコニコ箱

ニコニコ委員会

【自主出宝】

水野会員・増田会員・山内会員・島本会員・石井会員 鶴野がバナ補佐、大中補佐付幹事、本日はようこそお越し下さいました。IMには多くのクラブ会員と共に参加したいと思っております。宜しくお願いいたします。

久保田会員 大中さん、ご無沙汰しております。本日は大役ご苦労様です。IMには私も楽しみに出席します。

水野会員・増田会員・山内会員・島本会員・石井会員 サンフレッチェ広島管理強化部長、織田様、本日は当クラブ例会にお越し頂き誠に有り難うございます。サンフレッチェ広島の優勝、誠におめでとうございます。この優勝は、私達広島市民の大いなる喜びであると同時に誇りでもあります。今後の益々のご活躍を祈念申し上げますと共に本日の卓話を楽しみにしています。

山坂会員 サンフレッチェ広島の織田さん、本日の卓話楽しみにしています。

高原会員◇ 新卒者の採用時期になりました。会員各位の職場にも若き憂愁は人々を迎えられると思っております。

当日計 14,000 円(内、web5,000 円) 累計 820,000 円

★=10,000 円 ☆=5,000 円 ◆=3,000 円 ◇=2,000 円

卓話時間

『念願のJ1制覇と新シーズンに向けて』

(株)サンフレッチェ広島

管理強化部 強化部 部長 織田 秀和 氏



皆さんこんにちは。只今ご紹介頂きました、サンフレッチェ広島の織田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

去年は、皆様方から頂戴いたしました大変なご支援、ご声援のお陰をもちまして、クラブ創設20年目にして初めてJリーグ制覇

というタイトルを勝ち取ることができました。これも皆様の温かいお力添えのおかげと心から感謝しております。この場をお借りいたしました、もう一度お礼をさせていただきます。どうもありがとうございました。今日は、今年の優勝のこと、それと新シーズンもスタートしましたので、そのあたりのお話をさせていただきます。

念願のJリーグ制覇を昨年成し遂げることができました。昨年何が一番変わったかと言いますと、一年前の話になりますが、監督が交代いたしました。それまで5年半にわたってチームを率いておりましたミハイル・ペトロヴィッチさんが退任をすることになり、後任は誰を選ぶかということは、会長・社長といろいろ相談しておりました。候補に挙がった方が3、4名おられました。ただ、その中でや

はり森保君でいこうよというのは、みんな3人の一致した考えではございました。というのも、彼はクラブ生え抜きの監督ではございませんし、非常にサンフレッチェのクラブっていうものを、チームの戦術とか、そういうものだけではなくて、どんなクラブなのか、どういう経営規模、どういう選手の採り方をしているのか、そういうことを熟知しているところが彼の強みでありました。

森保監督による成果というものは、まず一つは、ペトロヴィッチさんが築いてくれた攻撃的なサッカースタイル、それを継続してくれて、なおかつ、サンフレッチェの長年の課題であった守備組織をきちんと構築してくれたということ、それと彼は非常にコミュニケーションを取るのが上手いです。彼、選手に対して常にポジティブな言葉かけをしてくれました。そしてなにより全ての選手への目配りをしてくれたということが一番大きいと思います。

でも一つ、去年は非常に、選手のコンディションが安定してました。毎年、レギュラークラスの選手がやはり、夏場とかになると2人、3人と長期の離脱をする怪我など、コンディションを崩してなかなかベストメンバー組めなかったんですが、去年森保監督のたつての希望により、フィジカルコーチ、体力づくり専門のコーチを採用いたしました。彼の指導も非常に良かったということで、長期離脱を要する怪我人が減少しました。ということで、シーズンを通して高いコンディションレベルが維持できて、要はメンバー固定することができました。固定することは決していいことばかりではないのですが、ただやはり主力となるメンバーがある程度固定できるっていうのは安定したチームパフォーマンスの発揮に繋がったというふう

に考えております。昨年優勝できましたが、クラブ創設20周年、その間でですね94年にJリーグサントリーシリーズ、あの94年の時点では1年のシーズンではなくて半年ごとのシーズンでした。ですから前期のほうのシーズンで優勝することができました。まあその後ですね、いいことばかりではなくて、2002年、2007年、二度のJ2降格、その後一年でJ1に復帰することができました。2010年にはアジアのチャンピオンズリーグに初出場することもできました。こんな歴史を経て、2012年、去年は念願の初制覇をすることができました。ただこれはですね、今から述べさせていただきますが、昨年だけの成果ではなくて、私が思うにこの20年、クラブが出来て20年間ずっとこう積み上げてきたものの成果ではないかなというふう感じております。

サンフレッチェのクラブ理念がございまして、これはサッカー事業を通じ、夢と感動を共有し、地域に貢献するというものでございます。市民・県民の皆様が親しまれ、愛されるクラブへ、そして我々自身にいつも思っていることは、目指せ日本一の育成型クラブ、自分達で育てることを、自分達の中で選手育成する、そういうクラブにしていこうよというのが我々の理念でございます。

そういったクラブの理念の中で、どんなチームを作っていくのというところになりますが、これはプロ意識を持ち自立した個人の力と、強固にまとまった組織の力を発揮して、アグレッシブで攻撃的な魅力がある、面白いサッカーを展開しようというのが我々のチーム作りの理念です。一番皆様にお話したいのは、要は一人二人のスーパースターに頼るチームではなくて、やっぱり組織として戦える、そういうチームにしていきたいというのが我々のチーム作りの理念でございます。

二番目、サポーター、ファン、スポンサー、そして地域の人々に愛され魅力のある感じのいい選手を育てていきたいと思います、自前のアカデミー、「アカデミー」というのは、自分達の高校生のチーム、中学生のチーム、小学生のチーム、あるいはサッカースクールといったものがございまして、そういう組織を一括りにして「アカデミー」と呼んでいます。それとアカデミーの中で、やっぱり一貫指導しながら有望な選手を育てていきたいと思います、我々の強化の理念でございます。

それからホームタウン周辺地域のサッカー普及と指導者養成事業

展開、自分達が強くなっていくだけではなくて、やはり地域のサッカーレベルの向上、そういうものにも寄与していきたいというふうに考えております。

まずチーム作りのコンセプトですね、まず一番はやはり現員戦力、今いる選手を強化するという、今の戦力を大事にするということが一番に考えています。その次にすること、アカデミー、自分達のこの下部組織から選手を育成していくということ、小学校年代のジュニアチーム、中学校年代のジュニエンスチーム、高校年代のユースチーム、こういった我々の組織の中でずっと一貫指導しながらプロに繋げていく、これを二番目に考えています。で、この一番、二番で足りないところがあれば、即戦力を補強していくというのが我々のチーム作りです。

プロチームはもちろん魅力のあるチームにしていきたい、そしてアカデミーは有望な若手選手を継続的に育成出来るようにしていきたい、そういうもの、この二つを合わせて選手育成型の安定したチームづくりを作り上げる、これが我々の一番の考えですね、コンセプトです。このキーワードは、私達はこう思っています。「継続性・一貫性・育成力」、この三つがやはりサンフレッチェ広島というJリーグの中でも中規模クラスのクラブですが、その我々が生き残っていくためには一番大事なポイントではないかな、キーワードではないかなというふうに思っております。

最初にも申しましたが、やはり今回の成果というのはやっぱり20年間の蓄積だと思います。これは、一つはやはりブレのないコンセプト、「継続性・一貫性・育成力」つてものを非常に大事にした結果だと思います。我々にはできるだけ長期的な視野の元、選手を育成しながら勝利を目指しております。ですから、いやちょっとここでなんとかあの有名な選手が取れそうだから取りにいこうよとか、大金を投じてですね、一過性の刹那的な戦力補強をするつもりはありません。やはり選手を育てながら、足りないところに補っていくことを考えています。一人のスター選手に頼るのではなく、チーム力で勝負する、そういうチームを作っていくことを20年間積み上げて来たと思います。

同時に我々の目指すもの、選手を育てながら勝とうという考え方が明確であるからこそ、次の手が打てるのではないかなというふうに思います。一つの例が、2007年にペトロヴィッチ監督の時ですが、J2に降格しました。普通降格をした時は誰かが責任を取らなきゃいけないってことで、一番に監督が責任を取る、その次に強化部長が責任取る、事と次第によっては社長が責任を取ることがあって、一番責任を問われるのは監督になるんですが、実はあのとき監督は、監督解任はしませんでした。続投させました。それも試合の終了した瞬間に、当時の社長の久保が降格直後ですね、みんなが打ちひしがれているロッカールームに行くとペトロヴィッチに、「ペトロヴィッチさん、来年も君に任せるからチームをもう一回作り直してくれ、いいチームを作ってくれ」で選手の前にも、それも選手の前で言いました、来年もペトロヴィッチさんであると、おまえたちもちゃんとチームに残って、一年でJ1に上げろ、ということを書いてくれました。この一言は大きかったと思います。

ペトロヴィッチ監督のサッカーについていこうという気持ちがすごくあったということ、でチーム自身も成長過程にあった、ただミスがあったから当然落ちたわけですね。そしたらそのミスは修正すればこのチームはきっと良くなるってことを、経営のトップが思ってくれたってことは非常に大きかったです。なんとか一年でJ1復帰することができました。もし監督を替えていてもできたかもしれないし、できなかったかもしれませんが、今のサンフレッチェを語る上では、この2007年の降格時に監督を続投させた、その判断というのは非常に大きかったかなというふうに思います。

あと、自分達が目指すものがあるから足りないところに、要はこのポジションだとこういうタイプの選手がいるねってことで補強をしています。で、なおかつ継続性を重視した監督を交代させています。ペトロヴィッチさんの攻撃的サッカーを追求しながら、バラ

ンスのいいサッカーにするために森保君を選んだ、というところに繋がってくると思います。

二番目、チームとフロントとのコミュニケーションっていうものが非常によく出来てきているなど、役割分担、それとチームのベクトル合わせ、方針のベクトル合わせですね、フロントはこういうチームを望んでいるよと、監督もこういうチームを作りたいよということをよくコミュニケーションを取っているつもりです。

サッカークラブっていうのは、サンフレッチェ広島っていうのはたぶんよほどのことがない限り、未来永劫続いていくものだと思います。ただ当然ながら選手やスタッフはその時々に入れ替わっていく、でこれがある意味当たり前だと考えたほうがいいと思っています。企業も同じではないかなというふうに思います。会社というのはやっぱり永遠ですよ、企業は永遠続いていくもの、でそこにいる社長様であり、社員様であり、そういう方々はその時々替わっていく、でもここは変わらないんだよということ、これいちばん大事にしなきゃいけないなというふうに思っています。それはやっぱりこの中にある考え方ですね、先ほど申しましたがサンフレッチェはこんなチームを作りたい、こんなチームにするんだよっていうのは、私は20年間ブレなく来てるんじゃないかなというふうに思います。これがあるからこそ我々のクラブは成長していけるし、誰が来てもきちんとした計算できるパフォーマンスを発揮できるんじゃないかな、というふうに考えています。

ここは一番大事にしたいところで、選手が、よく最近サンフレッチェの生え抜きの有力選手がよそのチームに出ていったりすることですが、選手が出ていくことに関して、私はハッピーでは決してありませんし、できれば残ってほしいと思うんですが、まあ入ってくる者あれば出ていく者がいるのも当たり前で、まあ主力選手が出るんであればまたそれに近い選手を育てるか、それかいないければまた取ってくるということの繰り返しをして、とにかくここが揺るがないようにしていきたいというふうに考えています。選手もスタッフも大事です。でも選手もスタッフもいつかは出ていきます。一番大事なのはここじゃないかなというふうに思っております。

実は昨日からトレーニングが始まりました。今年の我々のスローガンは「一丸」、去年は「団結」でしたが、同じような意味合いで、これは常日頃森安監督が、やはり我々のチームはまとまってこそ力を発揮できる、まとまろうということを非常に強調しています。そういう意味で「一丸」というスローガンにしました。これは読み方によっては「はじめ丸」で、森安監督の下の名前が「一」なんです。はじめ丸」という船にみんなで乗って、みんなで漕いで勝利に向かっていこうよという意味もあるのかなと、私が勝手に想像しております。

2013年シーズン、今年はおそらく対戦チームから徹底したサンフレ対策を練られると思います。またJリーグとともに、アジアチャンピオンズリーグとの並行開戦もあって非常にハードスケジュール、タフなゲームになると思います。ですが弱音を吐くのではなく、楽しみながら戦っていきたいというふうに考えております。先ほど申しましたが、我々とはとにかく昨年活躍した現員戦力がベース、で選手層、チーム力の底上げのためにバックアップ、例えば若手選手を採用・育成・強化していきたいというふうに考えています。今レギュラークラスにはそれなりの選手がいるっていう自信があります。だからそこ、何かあった時に補うための選手達、若い将来性のある選手を育てていきたいと考えています。

今後ですが、1月24日から鹿児島でキャンプ、で宮崎で二次キャンプ、そのあと23日にはゼロックススーパーカップというリーグのチャンピオンとサンフレッチェと天皇杯のチャンピオン柏レイソルさんとの試合が早速ございます。いわゆるJリーグのオープニングゲームですね、それが終わったかと思うと今度チャンピオンズリーグ、ブニョドコルというウズベキスタンとのチームと、エディオンスタジアム(広島ビッグアーチ)で戦います。そして3月2日の開幕戦を迎えることとなります。

開幕前になんか厳しい試合二試合あって、ちょっとへろへろ状態で迎えるのではないかとちょっと心配なのですが、いいコンディションを整えて開幕を迎えたいと思っています。

あと直接はサンフレッチェに関係ありませんが、今話題になっております、広島にサッカースタジアムを建設へということで、いろんな署名活動とかしておりますが、ぜひ皆様ご賛同、ご協力よろしくお願ひします。サッカー専用スタジアムという言い方になりますけど、もちろんピッチの中はサッカー専用ですけど、周りに、ショッピングセンターとかレストランとか会議室とか、そういう複合的な施設を設けて、常に人が出入りできるような施設にしたいというふうを考えておりますし、そういうものを作っていたらいいと思っています。サンフレッチェのためだけのスタジアムではないので、ぜひご理解よろしくお願ひしたいと思います。それと最後になりますが、サンフレッチェ自身の未来のためにシーズンパスも販売しておりますし、年間指定席も販売しております。ご興味ございましたらお買い上げのほうよろしくお願ひしたいと思います。

本日はご清聴ありがとうございました。



1月10日卓話時間

『会長年頭挨拶』

会長 水野 勝 会員

新年おめでとうございます。早いもので私の年度も半年が過ぎました。

さてお正月ですので、おめでたい七福神の話をしたと思います。七福神信仰は室町時代末期より京都で始まったといわれていますが、皆様ご存じのように七福神とは恵比寿(商売繁盛の神様)、大黒天(豊作の神様)、紅一点の女神弁財天(学問と財福の神様)、毘沙門天(勝負事の神様)、布袋和尚(開運、良縁、子宝の神様)、福祿寿(福德、長寿の神様)、寿老人(長寿と幸福の神様)、以上の7名ですが、知っておられる方も多いと思いますが、この中で恵比寿さんのみ日本由来の神様で、あとは皆舶来の神様です。大黒天、毘沙門天、弁財天はいずれもインド、ヒンドゥー教から、福祿寿、寿老人、布袋は中国からで、布袋だけ実在した仏教の僧侶といわれ、あとの2人は道教の神です。このように日本人は神仏習合が昔から行われていて、あらゆる神々を受け入れてきました。どんな悪行を行った人も死ねば仏様として扱ったのです。こうした感覚は外国人には理解されません。したがって靖国の問題も、こうした日本の感覚と外国との違いから生じたものかと思ひます。一神教である国々や宗教を否定する共産圏には理解できるはずもないことと思ひます。日本という国をよく理解した人には靖

国に参拝することはごく自然のこととして理解されるはずですが。

さて、7月の就任挨拶で始まった私の年度ですが、8月23日にはガバナー公式訪問があり、素晴らしいフォーラムを開いて頂き、ガバナーからはお褒めの言葉をいただきました。28日には地区指導者育成セミナーが当ホテルで行われ、石田会員、岡部会員にはロータリー財団部門で特に夢計画の補助金の申請とプロジェクトの実施について勉強していただき、私と増田副会長はEクラブの現状と2710地区におけるEクラブ設立準備委員会の活動について話を聞きました。9月20日にはお月見懇親会をロータリー家族親睦委員会で開いていただき、素晴らしいお月様と鈴虫の音色には感激しました。27日には京都伏見RCとの調印式があり、姉妹クラブ友好特別委員会神農委員長をはじめ、多くの委員の方々の周到な準備のおかげで秋晴れの瀬戸内海、大崎下島を案内することができ、京都伏見の方々にも大変喜んでいただきました。

10月になると11日に高性能車椅子を悠々タウソ江波に送る寄贈式を奉仕プロジェクト常任委員会、中でも社会奉仕委員会を中心にを行いました。25日には地区大会が呉であり、第1日目の会長幹事合同セミナーでは、会長代理深川純一パストガバナーが「韋駄天」と題して会長、幹事のあり方について話されました。その中で、会長は常に幹事をサポートし、幹事も常に会長を立てて補佐する、そうやってこそ健全かつ強力なクラブ運営ができる、と話されました。大会第2日目の姜 尚中(カン サンジュン)さんの記念講演では、今こそ日韓が手を携えて中国の膨張、台頭に対応してアジアをまとめてゆかなければならない、かつて戦争をしていたドイツとフランスがヨーロッパをユーロにまとめたように、と話されたことが印象に残っております。安倍総理、岸田外務大臣に期待します。

11月はロータリー財団月間で、第2週に「そうだったのか！財団学べるニュース」と題して、わかりやすく財団について岡部委員長に解説していただきました。

12月には6日に年次総会があり、いよいよ次年度が始動を始めました。20日には「冬の家族会」で177名もの出席があり、家族共々楽しい夜を過ごすことができました。ロータリー家族親睦委員会の方々、本当にありがとうございました。大急ぎで昨年を振り返ってみましたが、これからまだ半年あり、平和フォーラム、ロータリー野球大会もあります。最後に今年が皆様にとつてよき年となりますことを願って、年頭挨拶とさせていただきます。

■出席報告

2013年1月17日(木) 会員数 80名

出席 57名 欠席 23名

来賓 1名 来客 3名

12月20日例会出席率 100%

12月度平均出席率 100%

■お客様ご紹介 ロータリー家族親睦委員会

織田 秀和 様(卓話来賓)

鶴野 俊雄 様(G6ガバナー補佐)

大中 恒男 様(ガバナー補佐付幹事)

佐藤 悟朗 様(広島)

■次回例会お知らせ 2013年1月31日(木)18:30~

『広島陵北・広島安佐・広島北3RC合同例会&懇親会』

会場:ホテルグランヴィア広島